

知の市場

— 講座の概要 —

人間は多様なリスクに曝される中で技術革新や制度改革そして人材改新を通して社会変革を成し遂げながら生活してきた。しかし日本も世界も未だ多くの課題を抱えている。こうした中において自らを活かしていくために社会と世界の現況に対する理解を深め幅広い教養を高めていくことが必須である。

社会の広範な領域において多用な機関が人々の幅広い要請に応じて学習の機会を提供している。また、多彩な背景を持つ人々がそれぞれの立場で役割を担いつつ自己実現を目指して自己研鑽に励んでいる。こうした力を糾合し、それぞれの分野で活動する人々と社会を構成する広範な人々の交流を促すために総合的な教育の場として知の市場を展開している。

2004年度から2008年度の5年間「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講し、総合的かつ実践的な学習の機会を提供してきた。そして全国から大きな反響を得るとともに、数十を越える開講機関や連携機関との協力関係を構築しつつ延べ1,731人の講師や延べ6,017人の応募者の人の輪を形成してきた。この成果を踏まえて2009年度は全国に新たな展開を図り、23の拠点で101科目を開講し、599人の講師が参画し延べ4,374人の応募者が参加した。

その中で「共催講座」は、「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関の主催により知の市場が共催して開講する。科目（120分授業15回2単位相当）を一つの単位とし開講し、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価を行うことを原則とする。当面、化学物質や生物の総合管理、医療や保健と動物医学、労働科学や社会情勢、社会変革と技術革新、コミュニケーションなどに関する領域で開講するが、時代の進展などに配慮しつつ適宜見直し進化する。

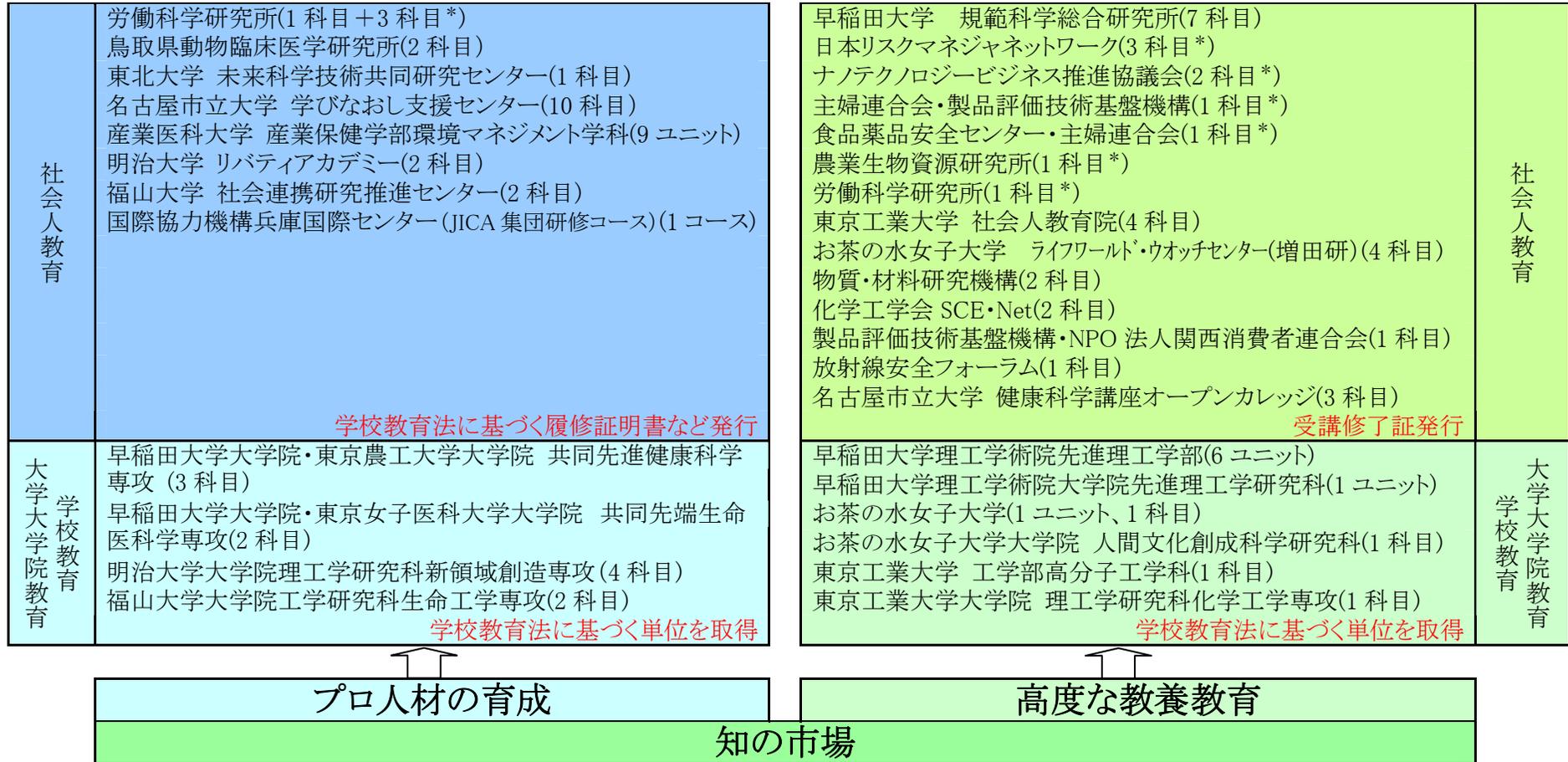
「関連講座」は、「化学・生物総合管理の再教育講座」や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって知の市場の理念を共有する活動で、個々の主催者が自らの主体性と責任のもとで知の市場の基本方針を念頭に置きつつも取り巻く諸般の状況を踏まえて、講義時間と講義回数、成績評価と受講修了証などについて柔軟かつ弾力的に運営する。大学・大学院での履修科目に相当する120分授業15回の講座を科目、講義回数の少ない講座をユニット、科目を越えた長期間の講座をコースとして分類する。当面、教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つの領域を設定する。

知の市場は、共催講座と関連講座の開講を通じて、プロ人材の育成と高度な教養教育というふたつの機能を果たしつつそれらの融合を促すとともに、社会人教育と大学院生の教育という学校教育においてふたつの役割を果たしつつそれらの融合を促進する。

2010年度は共催講座として16の開講機関の主催により37の科目を、関連講座として16の開講機関の主催により29科目、1コース(19科目相当)、20ユニットを、合計32の開講機関の主催により105の科目相当を開講する。

知の市場の構造

— 講座の位置 —



* 早稲田大学規範科学総合研究所との共催科目

共 催 講 座

2009年度は11の開講機関の主催により465名の講師陣の参画を得て合計59科目を開講し、2297名の応募者があった。2010年度は、早稲田大学規範科学総合研究所が7科目を、日本リスクマネージャネットワークが3科目、ナノテクノロジービジネス推進協議会が2科目、主婦連合会と製品評価技術基盤機構が1科目、食品薬品安全センターと主婦連合会が1科目、農業生物資源研究所が1科目、労働科学研究所が4科目をそれぞれ早稲田大学規範科学総合研究所との共催で開講する。また、労働科学研究所が1科目、東京工業大学社会人教育院が4科目、お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター（増田研究室）が4科目、物質・材料研究機構が2科目、化学工学会 SCE-Net が2科目、鳥取県動物臨床医学研究所が2科目、製品評価技術基盤機構と関西消費者連合会が1科目、東北大学未来科学技術共同研究センターが1科目、放射線安全フォーラムが1科目をそれぞれ開講し、合計16の開講機関の主催により37の科目を開講する。なお、関連講座として開講する産業医科大学産業保健学部環境マネジメント学科では、所定の1科目相当の修了者を共催講座修了者として認定（6科目）する。

1. 早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は<http://www.waseda.jp/prj-iirs/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス（東京メトロ西早稲田駅前）

(2) 概要

化学物質や生物の総合管理を中心にコミュニケーション等を含めた現代社会の理解に資する広範な分野の科目を開講する。2010年度は、前期に4科目、後期に3科目の合計7科目を開講する。2004年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理Uの一部を継承している。

化学物質のリスク評価に関する科目、農薬のベネフィットとリスクの総合管理に関する科目、過去・現在・未来における感染症と防御に関する科目、動物と人との病理を含めた関係に関する科目、リスクコミュニケーションとマスメディアの果たす役割に関する科目及び環境に関する科学や政策に関する科目を開講する。動物との関係に関する科目及び環境政策に関する科目は、2009年度に東京工業大学社会人教育院で開講した科目を継承している。

このほか、日本リスクマネージャネットワークと3科目、ナノテクノロジービジネス推進協議会と2科目、主婦連合会及び製品評価技術基盤機構と1科目、食品薬品安全センター及び主婦連合会と1科目、農業生物資源研究所と1科目、労働科学研究所と4科目の合計6機関と13科目を共催で開講する。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2004	2	51	28
2005	4	114	66
2006	5	128	73
2007	5	119	67
2008	5	150	77
2009	7	227	134
2010	7(前期4科目)	98(前期)	
合計	35	887	445

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

2. 日本リスクマネージャネットワーク

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.jrmn.net/> を参照下さい。

(1) 開催場所

大阪府環境農林水産総合研究所 (JR 環状線・地下鉄中央線・鶴見緑地線 森ノ宮駅)

(2) 概要

化学物質や環境に関する講座を開講する。2010年度は前期に1科目、後期に2科目の合計3科目を開講する。

化学物質のライフサイクル全般にわたるリスクの評価や管理に関する科目、防疫薬の技術革新と社会的役割の紹介に関する科目、及び最新のトピックや身近な関心事を含めた環境問題の基礎に関する科目を開講する。前2者の科目は、2009年度に東京工業大学社会人教育院及び早稲田大学規範科学総合研究所で開講した科目を継承している。

新規開講機関である。修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	2	43	30
2010	3(前期1科目)	14(前期)	
合計	5	57	30

2009年度は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。
(2010年7月6日現在)

2. ナノテクノロジービジネス推進協議会

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.nbcj.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス (東京メトロ西早稲田駅前)

(2) 概要

ナノテクノロジーに関する講座を開講する。2010年度は前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

ナノテクの研究開発、実用化・産業化の現状と将来に関する科目、及びアスベストとナノ材料のリスクの評価や管理を比較検証する科目を開講する。後者の科目は2009年度にお茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター(増田研究室)で開講した科目を継承している。

新規開講機関である。修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	1	35	19
2010	2(前期1科目)	38(前期)	
合計	3	73	19

2009年度は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。
(2010年7月6日現在)

4. 主婦連合会

製品評価技術基盤機構 (NITE)

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は <http://www.shufuren.net/> 、 <http://www.nite.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス (東京メトロ西早稲田駅前)

(2) 概要

製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目を開講する。

2010年度は、主婦連合会と製品評価技術基盤機構と早稲田大学 規範科学総合研究所との共催で後期に東京で1科目を開講するほか、製品評価技術基盤機構とNPO 法人関西消費者連合会との共催で前期に大阪で同じ内容で1科目を開講する。

2009年度に、ほぼ同様の内容の科目を製品評価技術基盤機構と主婦連合会とNPO 法人関西消費者連合会との共催で東京と大阪で開講している。2005年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の一部を継承している。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	1	12	4
2006	3	96	56
2007	3	106	58
2008	4	141	84
2009	2	70	53
2010	1		
合計	14	425	255

2009年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

5. 食品薬品安全センター

主婦連合会

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は<http://www.fdsc.or.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス（東京メトロ西早稲田駅前）

(2) 概要

食品の安全について、食品衛生検査の精度管理の実際、食品の安全性試験の基礎、機能性食品の安全性確保における問題点などに関する科目を後期に1科目を開講する。

2009年度にほぼ同様の科目を食品薬品安全センターの主催で開講している。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	1	47	26
2010	1		
合計	2	47	26

(2010年7月6日現在)

6. 農業生物資源研究所

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は<http://www.nias.affrc.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

主婦会館プラザエフ（JR 中央線 四ッ谷駅前）

(2) 概要

人々の生活を支える一次産業と生物資源に関して、分子生物学的研究の著しい進展を踏まえ、農業に利用されてきた生物資源の改良の歴史や社会的役割、新産業創出の可能性を含めた最新の研究内容などについて紹介する科目を後期に1科目を開講する。

2009年度にほぼ同様の科目を農業生物資源研究所の主催で開講している。2008年度

「化学・生物総合管理の再教育講座」の農業生物資源カレッジを継承している。
修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2006	1	11	7
2007	1	21	16
2008	2	56	32
2009	1	52	28
2010	1		
合計	6	140	83

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

7. 労働科学研究所

早稲田大学 規範科学総合研究所

詳細は<http://www.isl.or.jp/expert/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

早稲田大学西早稲田キャンパス（東京メトロ西早稲田駅前）

(2) 概要

産業現場における安全・保健・環境に関する科目を開講する。2010年度は、基礎1科目を前期に、産業安全保健のプロ育成を目指す3科目を後期に開講する。2005年度から2009年度まで労働科学研究所が単独で開講した産業安全保健エキスパート養成コースを継承している。

産業保健の基礎として労働科学の歴史と展開を紹介する科目及び専門的な知識と専門技術を有し総合的なリスクアセスメントとそれに基づく対策を自立して行うことができる職場における産業安全保健のプロ人材(エキスパート)の育成を目指す3科目(安全、健康、職場環境)を開講する。

産業安全保健のプロ育成科目の受講者は、上司の許可を得た業務としての参加を原則とするが、講義に十分参加できる場合は個人的な受講も可能である。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

なお、労働科学研究所では、このほか事前に労働科学研究所が実施する「産業安全保健エキスパート認定試験二級」の合格者のみを対象とする実習を主とした上級科目として産業安全保健エキスパート養成コース（現場実習、有料）を単独で開講する。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	4	80	80
2006	8	156	152
2007	8	200	200
2008	8	196	196
2009	8	196	196
2010	4(前期1科目)	15(前期)	
合計	40	843	824

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

8. 労働科学研究所

詳細は<http://www.isl.or.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

労働科学研究所（小田急線 向ヶ丘遊園駅又は横浜市営地下鉄あざみ野駅からバス）

(2) 概要

産業現場における安全・保健・環境に関する専門的な知識と専門技術を有し、総合的なリスクアセスメントとそれに基づく対策を自立して行うことができる人材、かつ社会的責任（CSR）の視点からリスクを経営トップに進言できるプロ人材（産業安全保健エキスパート）への最終関門となる科目を開講する。2005年度から2009年度まで開講した産業安全保健エキスパート養成コースを継承している。

労働科学研究所が実施する「産業安全保健エキスパート認定試験二級」に合格した者のみを対象とし、受講者自らの所属組織における産業安全保健に関する現場の改善計画の策定やその実施、そして成果報告といった一連の過程を中心とする上級科目である。

修了者には受講修了証を発行する。労働科学研究所が資格認定試験を行う予定である。受講料は有料である。

なお、労働科学研究所では、このほか早稲田大学と共催で、産業保健の基礎に関する科目と安全、健康、職場環境に関する産業安全保健エキスパート養成コース3科目の計4科目を無料で開講する。「産業安全保健エキスパート認定試験二級」に合格するためには、この4科目を受講することが推奨されている。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	4	80	80
2006	8	156	152
2007	8	200	200
2008	8	196	196
2009	8	196	196
2010	1		
合計	37	828	824

(2010年7月6日現在)

9. 東京工業大学 社会人教育院

詳細は<http://www.kyoiku-in.titech.ac.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

東京工業大学田町キャンパス（JR山手線 田町駅前）

(2) 概要

2010年度は、前期に3科目、後期に1科目の合計4科目を開講する。2004年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学生物総合管理Uの一部を継承している。

化学物質のライフサイクル全般にわたるリスクの評価や管理に関する科目、環境中の化学物質が脳の機能に及ぼす影響や分子が織りなす脳の機能とその脆弱性に関する科目、有害物質を取り扱う作業現場に存在するさまざまなリスクの評価や管理に関する労働衛生対策に関する科目、及び食のリスク管理に関する科目を開講する。食のリスク管理に関する科目は2009年度に早稲田大学 規範科学総合研究所で開講した科目を継承している。

修了者に受講修了証を発行する。受講料は1科目あたり15,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2004	3	68	54
2005	9	235	140
2006	11	300	175
2007	11	309	174
2008	9	366	213
2009	14	236	178
2010	4(前期3科目)	40(前期)	
合計	61	1550	934

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

10. お茶の水女子大学 ライフワールドウオッチセンター (増田研究室)

詳細は <http://www.chinoichiba.org/masuda.html>

<http://www.lwwc.ocha.ac.jp/saikyouiku/> を参照下さい。

(1) 開催場所

お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)

(2) 概要

科学と技術や社会と世界の理解に資する広範な分野の4科目を開講する。2004年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の創始者として、化学・生物総合管理Uの一部を継承している。

2010年度は、2009年度に引き続き科学と技術や社会と世界の広範な事柄について幅広く自由に論じる2科目のほか、金融資本市場の理論と実態に関する科目、石油をはじめとする日本とサウジアラビアの戦略的互惠関係を考える科目を開講する。

お茶の水女子大学の学部学生の単位取得対象科目である。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2004	10	213	152
2005	36	844	510
2006	31	659	360
2007	24	647	305
2008	10	551	290
2009	4	164	91
2010	4(前期2科目)	67(前期)	
合計	119	3145	1708

(2010年7月6日現在)

11. 物質・材料研究機構

詳細は <http://www.nims.go.jp/collaboration/evening-seminar.html>

を参照下さい。

(1) 開催場所

物質・材料研究機構(NIMS)東京会議室(東京メトロ虎ノ門駅、神谷町駅)

(2) 概要

社会の諸々の活動を支える物質や材料に関する最先端科学と応用を判り易く紹介する科目を開講する。2010年度は前期に1科目、後期に1科目の計2科目を開講する。2009年度の科目とは連続しているが、内容を一新した別科目である。2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した物質材料カレッジと物質・材料研究機構が独自に行ってきたNIMSイブニングセミナーとを発展的に継承している。

物質・材料研究機構が保有する大型設備、解析評価技術、材料情報技術などの物質・材料基盤技術を紹介するとともに、種々のナノ材料の科学とその応用などを紹介する2科目を連続した内容の科目として開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2006	1	21	11
2007	1	13	7
2008	1	35	19
2009	2	81	50
2010	2	39(前期)	
合計	7	189	87

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

1.2. 化学工学会 SCE・Net

詳細は<http://www.sce-net.jp/shakaijinkyuiku.html>を参照下さい。

(1) 開催場所

お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)

(2) 概要

化学工学技術者として自ら体験したことを踏まえながら、化学工業とその製品の社会との関係を論じる科目と、環境に関する諸問題の解決と化学技術との係わりを論じる科目を開講する。

2010年度は、2009年度とほぼ同様の内容で後期に2科目を開講する。2005年度から2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講してきた科目の一部を継承している。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は1科目あたり5,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	7	111	65
2006	7	90	51
2007	7	122	54
2008	3	106	45
2009	2	58	36
2010	2		
合計	28	487	251

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

1.3. 鳥取県動物臨床医学研究所

詳細は<http://www.dourinken.com/>を参照下さい。

(1) 開催場所

鳥取県動物臨床医学研究所 (JR 倉吉駅)

(2) 概要

動物医療の中でも伴侶動物医療の近年の発展は目を見張るものがある。しかし、急速な発展の中にはひずみが発生しているのも事実である。医療は生き物的要素があり、急速な変化に対応不能な面もある。臨床獣医学のありようを再考し、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証し、そのありようを検討する科目を開講する。2010年度は前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

受講対象者は獣医師、獣医系大学学生、動物看護師に限る。

新規開講機関である。修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	2	136	
合計	2	136	

(2010年7月6日現在)

1.4. 製品評価技術基盤機構

NPO 法人 関西消費者連合会

詳細は <http://www.nite.go.jp/> を参照下さい。

(1) 開催場所

八尾市立くらし学習館 (旧：婦人会館、近鉄八尾駅)

(2) 概要

製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目を開講する。2009年度に、ほぼ同様の内容の科目を製品評価技術基盤機構と主婦連合会とNPO法人関西消費者連合会の共催で東京と大阪で開講している。2005年度から2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の一部を継承している。

2010年度は、製品評価技術基盤機構とNPO法人関西消費者連合会の共催で大阪で前期に1科目開講するほか、主婦連合会と製品評価技術基盤機構と早稲田大学 規範化学総合研究所の共催で、後期に東京(早稲田大学西早稲田キャンパス)で同じ内容で1科目を開講する。

修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	1	12	4
2006	3	96	56
2007	3	106	58
2008	4	141	84
2009	2	70	53
2010	1	35(前期)	
合計	14	460	255

2009年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

1.5. 東北大学未来科学技術共同研究センター

詳細は <http://www.niche.tohoku.ac.jp> を参照下さい。

(1) 開催場所

東北大学未来科学技術共同センター (青葉山キャンパス内、JR仙台駅からバス)

(2) 概要

超臨界技術の基礎とナノ材料創製への展開及びそのリスク管理面の対策についての科目を2010年度の前期に1科目開講する。

新規開講機関である。修了者には受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	1		
合計	1		

(2010年7月6日現在)

1 6. 放射線安全フォーラム

詳細は<http://www.rsf.or.jp/index.htm>を参照下さい。

(1) 開催場所

千代田お茶の水ビル (JR 御茶ノ水駅)

(2) 概要

人間だれしも放射線との付き合いなしに“生命の営み”を続けることはできない。放射線への暴露の定量的把握と放射線のリスク管理について論じる科目を 2010 年度の後期に 1 科目開講する。

新規開講機関である。修了者には受講修了証を発行する。受講料は 5,000 円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	1		
合計	1		

(2010 年 7 月 6 日現在)

1 7. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科

詳細は<http://toppy.health.uoeh-u.ac.jp/ReEdu/index.html>を参照下さい。

(1) 開催場所

産業医科大学 (北九州市 JR 折尾駅からバス)

(2) 概要

関連講座として社会人教育プログラム「職場の安全衛生技術」を開講するが、所定のユニットの組合せによる 1 科目相当の修了者を共催講座の修了者として認定する。認定対象科目は 6 科目ある。

2006～2008 年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理 U で開講した科目の一部を発展的に継承している。

科目の修了者に受講修了証を発行する。

開講内容の詳細については関連講座のⅡ 専門編の 3. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科の概要参照 (p. 13)。

関 連 講 座

2009年度は、教養編3ユニットと1科目、専門編10ユニットと6科目、研修編1コースと2科目、大学・大学院編9ユニット、10科目、合計12の開講機関の主催により合計22ユニット、19科目、1コースを開講し、2027人が受講した。2010年度は、教養編として名古屋市立大学大学院の主催で3ユニット、専門編として名古屋市立大学学びなおしセンターの主催で10科目、産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科の主催で9ユニット、明治大学大学院と明治大学リバティアカデミーの共催で2科目、福山大学社会連携研究推進センターの主催で2科目、研修編として国際協力機構兵庫国際センターの主催で1コース(19科目相当)、大学・大学院編として早稲田大学が6ユニット、早稲田大学大学院が1ユニット、早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻が3科目、早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻が2科目、明治大学大学院が4科目、お茶の水女子大学が1科目と1ユニット、お茶の水女子大学大学院が1科目、東京工業大学が1科目、東京工業大学大学院が1科目、福山大学が2科目を開講し、合計16の開講機関の主催により合計20ユニット、29科目、1コース(19科目相当)を開講する。

I. 教養編

1. 健康科学講座オープンカレッジ：名古屋市立大学大学院 医学研究科

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

名古屋市立大学 川澄キャンパス (名古屋市地下鉄桜山駅前)

(2) 概要

市民の日々の生活を実りあるものにし将来の生活設計に資するために、名古屋市立大学医学部の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を市民にわかりやすく解説し自己研鑽と再学習の場を提供することを目的に、2005年度から開講している。講師陣は名古屋市立大学医学研究科の教員を中心に、各ユニットのコーディネーターの下で学内他研究科の教員そして外部の研究者や実務家も参画している。受講者は大学生・大学院生も含めて医療・福祉関係や教育関係など幅広い社会人を対象にしている。

90分授業8回からなるユニットを毎年開講している。平日夜間(18時30分～20時)に名古屋市内で開催する。

6回以上の出席者には修了証を発行する。受講料は1ユニットあたり8,000円である。

開催年度	ユニット数	受講者数	修了者数
2005	5	403	284
2006	6	497	390
2007	6	412	342
2008	6	371	256
2009	3	222	175
2010	3 (1学期1科目)	75 (1学期)	
合計	29	1980	1447

(2010年7月6日現在)

II. 専門編

1. 名古屋市立大学 学びなおし支援センター

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/> を参照下さい。

(1) 開催場所

名古屋：名古屋市立大学 川澄キャンパス（名古屋市地下鉄桜山駅前）

(2) 概要

医療保健分野の人材不足を補うため、職場復帰と高度医療に対応できる能力の向上を支援する自己研鑽プログラムで、専門分野に応じた柔軟な選択科目から構成している。

医療と保健分野の国家資格保有者を対象としたコース制（医療専門コース、医療技能コース、健康・保健コース）での受講とスポット科目での受講があり、スポット科目での受講は一部受講制限のある実習科目を除き一般の人も受講可能である。

3学期制で、2010年度は各学期5科目の合計10科目を開講する。2008年度に開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学生物総合管理Uの一部を発展的に継承している。

受講修了した国家資格保有者については、受講修了証を発行するほか、履修証明試験の成績に応じて学校教育法に基づく履修証明書を授与するとともに就職支援もおこなう。一般の受講者については受講修了証を発行する。受講料は無料である。

なお、講座受講中は学内「さくら保育所」の一時託児サービス(無料)も利用できる。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2008	7（6科目は12月開講）	248	194
2009	18	1008	459
2010	10（1学期5科目）	448（1学期）	
合計	35	1704	653

(2010年7月6日現在)

3. 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科

詳細は <http://toppy.health.uoeh-u.ac.jp/ReEdu/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

産業医科大学（北九州市 JR折尾駅からバス）

(2) 概要

産業保健学部環境マネジメント学科による社会人教育プログラム「職場の安全衛生技術」として、有害因子を取り扱う作業現場に存在するさまざまなリスクの評価及び管理の方法、人間工学の概念と人間工学的デザイン（設計）とその応用、リスクマネジメントなどに関して、2009年度に引き続き開講する。

5回の授業からなるユニットを12ユニット（一部計画中を含む）開講する。その内容は、化学因子による生体影響の評価、化学物質の測定とその対策、職場の物理因子の測定と評価、職場の生物因子とその測定法、人間工学、職場の安全管理、リスクアセスメント実習、職場におけるリスクマネジメント、安全衛生に関する国際動向、労働安全衛生に関わる法規である。

2006～2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」の化学・生物総合管理Uで開講した科目の一部を発展的に継承している。

ユニットの修了者にはユニットの修了証を発行する。

受講料は無料であるが、資料代を徴収する。

規定された3ユニットの組合せに従って受講すれば1科目を受講したものと認定される。
規定されたユニットの組合せは6科目ある（さらに2科目を計画中）。

科目の修了者には修了証を発行する。（詳細は共催講座のページ参照）

開催年度	科目・ユニット数	受講者数	修了者数
2006	1	25	20
2007	3	102	64
2008	3	115	68
2009	6	26	22
2010	9		
合計	22	268	174

2008年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。

(2010年7月6日現在)

3. 明治大学 大学院理工学研究科新領域創造専攻

明治大学 安全学研究所

明治大学 リバティアカデミー

詳細は<http://www.meiji.ac.jp/sst/grad/>

<http://academy.meiji.jp/ccs/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

明治大学駿河台校舎リバティタワー（JR御茶ノ水駅）、または

明治大学秋葉原サテライトキャンパス（JR秋葉原駅前）

(2) 概要

安全・安心な社会の実現のためには、工学的な視点のみならず人文・社会科学的な視点も含めた包括的、統一的、領域横断的な考察が必要である。暮らしの中の安全の検証と社会の中に安全を創るための方策について論じる科目、及び製品と機械の安全及びリスクアセスメントに関する科目を開講する。

2010年度は、120分授業16回からなる科目を前期に1科目、後期に1科目、計2科目開講する。この各科目は、2009年度以前のユニット（120分授業8回）の2ユニット相当を統合したものである。

修了者には修了証を発行する。受講料は1科目あたり10,000円である。

開催年度	科目・ユニット数	受講者数	修了者数
2005	2ユニット	169	17*
2006	3ユニット	308	186
2007	4ユニット	100	84
2008	4ユニット	119	90
2009	4ユニット	326	199
2010	2科目	69(前期)	
合計	19	1091	576

*：1科目は修了証発行せず

(2010年7月6日現在)

4. 福山大学社会連携研究推進センター

詳細は <http://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/index.html> を参照下さい。

(1) 開催場所

福山大学 宮地茂記念館 (JR 福山駅前)

(2) 概要

地域における社会人を対象に、地域の企業、行政、大学、試験・研究機関などとの連携により、化学・生物総合管理に基づく教育として、地域産業における化学・生物総合管理学の実際に関する科目、健康被害(生活習慣病)から身を守るためのリスク管理に関する科目を開講する。2010年度は、2009年度に開講した6科目とは異なる科目を通年で2科目を開講する。

各科目は、1)講義、2)リスク管理技術の実験と実習、3)リスク管理マニュアルとその活用プランの作成、4)受講者による公開発表の4部から構成する。

福山大学の大学院教育の一環であり、所定の手続きを経ることで大学院工学研究科博士前期課程の単位として認定される。

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2008	4	75	64
2009	6	213	12
2010	2		
合計	12	288	76

(2010年7月6日現在)

Ⅲ. 研修編

1. 国際協力機構兵庫国際センター（JICA 集団研修コース）
：環境安全のための化学物質のリスク管理と残留分析

詳細は <http://www.jica.go.jp/hyogo/> を参照下さい。

(1) 開催場所

国際協力機構兵庫国際センター他、全国各地

(2) 概要

途上国の中堅の行政官、技官、研究者（定員 8 名）を対象に 6 ヶ月間、大学、専門機関、民間企業の参加によって講義、実習、見学などを実施し、化学物質のリスク評価と管理の基本原則と実務の理解、リスク管理技術としての分析技術の習得、学んだ知識や技術を自国で活かすための行動計画の策定などに関して研修する。2 月から 8 月にわたる研修であり、ほぼ 19 科目分に相当するコースである。

本研修コースは第 1 期は 1998 年度から 2002 年度、第 2 期は 2003 年度から 2007 年度に実施し、第 3 期は 2008 年度から 2010 年度の計画で実施している。

期	開催年	コース数	受講者数	修了者数
第 1 期	1997～2002	各年 1	40	40
第 2 期	2003～2007	各年 1	40	38
第 3 期	2008～2010	各年 1	16	8
合計		11	96	86

(2010 年 7 月 6 日現在)

IV. 大学・大学院編

2010 年度に 10 の開講機関で大学や大学院での正規の科目として開講される合計 15 科目、8 ユニットの知の市場の関連講座として位置づける。

大学・大学院	科目名	種別	学科
早稲田大学 理工 学術院 先進理工 学部	生命医科学ゼミナールⅡ	ユニット	生命医科学科
	生命科学概論 A (経営・ 資源・社会工学)	ユニット	経営・資源・社会工学科
	生命科学概論 A (建築・ 電子工学)	ユニット	建築・電子工学科
	生命科学概論 A (総合機 械 1,2)	ユニット	総合機械学科 1,2
	生命科学概論 A (化学・ 応用化学)	ユニット	化学・応用化学科
	生命科学概論 B (生命医 科)	ユニット	生命医科学科
早稲田大学 理工 学術院 大学院先 進理工学研究科	先端バイオテクノロジー 特論 C	ユニット	生命医科学専攻
早稲田大学 大学 院・東京農工大学 大学院 共同先進 健康科学専攻	化学物質総合管理学	科目	共同先進健康科学専攻
	食農環境総合管理学	科目	共同先進健康科学専攻
	リスク評価学	科目	共同先進健康科学専攻
早稲田大学 大学 院・東京女子医科 大学大学院 共同 生命医科学専攻	化学物質総合管理学	科目	共同先端生命医科学専攻
	リスク評価学	科目	共同先端生命医科学専攻
明治大学 大学院 理工学研究科 新 領域創造専攻	社会技術革新学特論	科目	研究科間共通科目
	化学物質総合管理学特論	科目	研究科共通科目
	安全学特論	科目	新領域創造専攻
	新領域創造特論 3	科目	新領域創造専攻
お茶の水女子大学	リスク管理 (演習)	科目	生活世界の安全保障科目：リベラル アーツ
	安全管理概論	ユニッ ト	基礎講義科目
お茶の水女子大学 大学院 人間文化 創成科学研究科	化学物質総合管理学 (隔年開催)	科目	自然応用科学系ライフサイエンス 専攻人間環境科学コース
東京工業大学 工 学部 高分子工学 科	社会技術革新学概論	科目	高分子工学科
東京工業大学 大学 院 理工学研究科 化学工学専攻	資源・エネルギー・安全論	科目	化学工学専攻
福山大学 大学院工 学研究科 生命工学 専攻	栄養リスクの総合管理学	科目	生命工学専攻
	地域産業のリスク管理学	科目	生命工学専攻

開講年度 開講機関	2009			2010			合計		
	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数
早稲田大学 理工学術院 先進理工学部	6 ユニ ット	688	444	6 ユニ ット	648		12 ユニ ット	688	444
早稲田大学 理工学術院 大学院先進理工学研究科	2 ユニ ット	21	21	1 ユニ ット			3 ユニ ット	21	21
早稲田大学大学院・東京農工大学大学院共同先進健康科学専攻	2010年 度から	—	—	3 科目	16		3 科目	—	—
早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院共同先端生命医科学専攻	2010年 度から	—	—	2 科目	1		2 科目	—	—
明治大学大学院理工学研究科 新領域創造専攻	4 科目	41	35	4 科目	22		8 科目	41	16
お茶の水女子大学	2 科目 1 ユニ ット	210	177	1 科目 1 ユニ ット	145	2	3 科目 1 ユニ ット	203	176
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	隔年 開講	—	—	1 科目	3		1 科目	—	—
東京工業大学工学部 高分子工学科	1 科目	33	31	1 科目	33		2 科目	33	31
東京工業大学大学院理工学研究科 化学工学専攻	1 科目	24	20	1 科目	23		2 科目	24	20
福山大学大学院 工学研究科 生命工学専攻	2 科目	43	18	2 科目			4 科目	20	
合計		1060	746					1030	708

(2010 年 7 月 6 日現在)